

令和元年度 学力向上指導改善プラン

三田市立ゆりのき台中学校

学校教育目標		自立して自分の将来の夢や目標に挑戦しつづける生徒の育成		
推進主体		研究推進委員会		
学力に関する前年度の課題・経年の課題				
学 力 の 状 況	全国学力・学習状況調査結果の状況 (国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	○すべての領域で80%以上の平均正答率である。 ○「書くこと」の領域はA・B問題ともに特に良好である。 ●目的に応じて文章を読み、内容を整理して「書く」問題について正答率が低いものになっており、読書量が少ないことが影響していると考えられる。	
		算数・数学	○全体的に良好な状態である。 ○無回答率0.0%の問題が21問もあり、最後まで粘り強く問題に取り組んでいることがわかる。 ●今までにしたことのない証明をしたり、数学的な表現を使って自分の考えを伝えたり、論理的に説明したりすることに少し課題がある。 ●数学の勉強が大切だと答えた生徒が85%ののに対し、数学が好きだと答えた生徒は60%に満たないことは課題である。	
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	○全体的に良好である。 ●長文の資料や実験操作とその結果を読み解く問題に対して、課題が見られる。	○授業等からうかがえる状況(各教科)	○積極的に授業に参加できる生徒が多く、真面目な授業態度である。 ●自分の考えを筋道を立てて説明することに課題が見られる
	慣学・力向上生活学習に係る学習状況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	○人の役に立つ人間になりたいと考えている生徒の比率が高い。 ○計画を立てて勉強したり宿題を家できちんとしたりする生徒の割合が高い。 ●将来の夢や目標を持っている生徒の比率が低い。 ●地域のことを調べたり地域の人と関わったりする機会が少ないと感じている生徒の割合が高い。	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況
研 校 修 内 の 研 究 状 況	校内研究の状況	○授業公開、教員による授業参観を進めることができた。	校内研修の状況	○授業改善のための研修会を2回実施(夏休み・11月)、同じ講師を招き系統だった研修にすることができた。
	家庭・携校種間連	家庭・地域等の状況	○定期的に家庭生活状況調査を実施、結果と分析について報告することにより、家庭との連携を深めることができた。 ○家庭の協力により、家庭学習プリントを行い、家庭学習習慣の定着を図ることができた。	小・中における教科連携等の状況
4月				
学力向上に向けての重点的な目標 (指標となる数値等)		成果となる目標	具体的な行動目標	
○読書活動の充実にも努める。		○1日目の読書時間30分以上が、全校生徒の55%以上になる。 ○一人当たりの読んだ本の数が5冊以上である生徒の割合が55%以上になる。	○図書ボランティアの活用等による、図書館の利用拡大を行う。 ○生徒会図書委員会の活動を通じた、読書活動の推進を行う。 ○さんだっこ読書通帳を活用する。	
○学力分析による学習方法、指導方法の工夫改善を行う。		○学校評価アンケートで、生徒・保護者の授業内容の肯定的意見が80%以上になる。 ○ICT機器の授業での活用を年間各教科2回以上実施する。 ○授業改善のための研修会を年間2回以上実施する。	○生徒が主体となって授業に参加する授業形態の実践を積極的に行う。 ○学習の理解を助ける、ICT機器等を利用した授業実践を行う。 ○授業のめあて、授業の振り返りの明示等の授業における「型」を確立する。 ○新学習システムの活用による、個に応じた学習指導の充実を図る。	
○家庭における学習習慣、生活習慣の改善に取り組む。		○平日の家庭学習時間が学年×60分以上が各学年生徒の85%以上になる。 ○平日の家庭学習30分以下の生徒0%を達成する。 ○携帯・スマホの使用時間2時間以内100%を達成する。	○定期的な家庭生活状況調査の実施による学習習慣・生活習慣の点検・指導を行う。 ○学校便り、学年・学級通信、懇談等を利用して各家庭への啓発を行う。	
○学習相談・教育相談の充実にも努める。		○教育相談を年2回実施する。 ○学校評価アンケートによる学習相談・教育相談に対する肯定的意見85%以上を達成する。	○教育相談週間を実施し、個々の生徒理解を図る。 ○学習ボランティア、ひょうごがんばりタイム事業を活用した学習支援を推進する。 ○テスト1週間前の部活動停止と放課後の時間を利用した学習相談を実施する。	
○学力向上に向けた小中連携の推進を行う。		○学習習慣・生活習慣の改善、学力向上の取り組みのための小中連携の会を年間3回以上実施する。 ○小中の授業交流を年間2回以上実施する。	○学習規律の小中で統一した指導の取り組みを行う。 ○小中連携のため出前授業、体験授業等の授業交流を実施する。 ○小中9年間を見通した、ゆりのき台中学校区標準(連携プログラム)を確立する。	
10～11月				
中間評価		年度末評価		
(今年度の全国学力・学習状況調査、研究の成果などを踏まえての設定目標等の見直し)		(今年度の成果と来年度に向けた課題等)		
○全国学力・学習状況調査による国語の問題において、「読むこと」の正答率は全国平均を上回る結果を得たが、文章の展開に即して情報を整理し内容を捉えることには課題が見受けられた。また、「書くこと」の正答率は全国平均と同じであった。文章の構成を理解し要点をまとめながら情報を整理する活動が必要であることから、今後も図書委員会、図書ボランティアと連携しながら読書活動の充実にも努めていく。10月現在、図書室での生徒一人当たりの貸出数が5冊以上の生徒は、12%なので、今後改善を進めていく。		○授業改善のための研修会を計画的に行い、授業公開期間の授業参観により、相互研修・自己研鑽を積極的に行うことができた。その結果が、学校評価アンケートにおける生徒・保護者の授業内容の肯定化率に表れたと思われる。 ○新学習システムによる少人数授業を効果的に活用し、一人ひとりに適した指導を心がけてきた。わかる喜びを実感できるように、来年度も継続していきたい。 ○ICT機器の利用については、苦手意識を払拭するために、研修を充実させていきたい。		
○自ら学ぶ楽しさ、わかる喜びを実感できる授業形態の実践を進めてきた。今後も今まで以上に、生徒・保護者の授業内容を肯定する意見が得られるような授業形態をめざしていく。 ○授業改善のための研修会を夏休み、11月の2回実施する。11月はICTを活用した研究授業の後に、「主体的に学び、対話を通して深め合える授業づくり」のための学習指導の工夫、授業改善について研修を行う。また、毎学期に授業公開期間を設定して、各自の授業改善に取り組んでいく。		○家で自分で計画を立てて勉強している生徒は、全国平均より12ポイント以上上回っている。また、平日の家庭学習時間が30分に満たないものは5%を割っている。これからも家庭における学習習慣の定着を一層図っていく。 ○ゲームや携帯・スマホに費やす時間が減らないことについては、通信や懇談で保護者啓発を行うだけでなく、学期に1回の教育相談で、生徒への働きかけを積極的に行う。		
○家で自分で計画を立てて勉強している生徒は、全国平均より12ポイント以上上回っている。また、平日の家庭学習時間が30分に満たないものは5%を割っている。これからも家庭における学習習慣の定着を一層図っていく。 ○ゲームや携帯・スマホに費やす時間が減らないことについては、通信や懇談で保護者啓発を行うだけでなく、学期に1回の教育相談で、生徒への働きかけを積極的に行う。		○「ひょうごがんばりタイム」の指導員との連携を強化し、基礎・基本の習得を図る。また、学習習慣の定着に取り組む。 ○6月と10月に教育相談週間を実施し相談体制の充実を図っている。また、3月にも教育相談週を設けており、相談をしやすい環境作りを進めるとともに、スクールカウンセラーや子どものサポーターとの連携を丁寧に行うことで、生徒の不安や学習面の課題等に早期対応していく。		
○授業改善のための研修会を夏休み、11月の2回実施する。11月はICTを活用した研究授業の後に、「主体的に学び、対話を通して深め合える授業づくり」のための学習指導の工夫、授業改善について研修を行う。また、毎学期に授業公開期間を設定して、各自の授業改善に取り組んでいく。		○教育相談を定期的に行ってきたことで、生徒の不安や悩み、早期対応できる環境を整えることができた。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと面談することの垣根を低くすることで、その橋渡しを円滑に行うことができた。 ○「ひょうごがんばりタイム」の活用による学習支援については、とても充実した取り組みになった。この取り組みを定着させるためには、来年度は事業開始の時期を早めて、年間を通した活動にしていきたい。		
○授業公開、教員による授業参観を進めることができた。		○出前授業や体験授業、授業交流を実施したことで、相互理解を、それぞれの状況を把握することができた。しかしながら、学習習慣・生活習慣の改善やゆりのき台中学校区標準の確立には至っていない。今後も学力向上を推進していく上で必須条件であり、来年度も継続して、積極的にしていきたい。		

A

A

B

B

B